



お江戸舟遊び瓦版 1114号

水彩都市江東 ころも美しい日本の再生 安全・安心まちづくり
お江戸観光エコシティ・お江戸舟遊びの会 江東区千田 13-10

2025年歴史教育者協議会 第76回 東京大会 「戦後80年の歴史に学び、平和を切り開く」

日時： 25年8月2、3日 9:00~19:30

所： 明治大学和泉キャンパス第一校舎

記念講演 戦後80年 戦争の記憶の継承から平和の創造へ

山田朗（歴史教育者協議会委員長・明治大学教授）

- ・ 今世紀に入り、政府は軍拡路線を推進し、負の遺産を観ない歴史修正主義の傾向も強まっている。戦争体験が直接伝えられる最後の時期であると同時に、体験者の証言などを「オーラスヒストリー」として伝えていく時代となっている。



はじめに：本報告の4つの課題

- ① 戦争と植民地支配の教訓とは？
- ② 何故にこれほどまでのジェノサイドが生まれたのか？
- ③ 戦争否定＝平和主義思想の基盤は？
- ④ 植民地支配の忘却という問題を克服するためには？

1. 戦争が植民地支配・国内暴力を生む

- ・ ロシア脅威論から始まった軍備拡張と対外膨張戦略：北海道と沖縄の併合
- ・ 戦争が植民地支配を生む：日清戦争；植民地支配の始まり、日露戦争；朝鮮・満州支配
- ・ 植民地支配が国内暴力を生む：韓国併合と大逆事件、教育による大国意識の刷り込み
- ・ 植民地戦争と世界戦争が国内暴力をもたらす：関東大震災虐殺事件、治安維持法

2. 満州事変・日中戦争・アジア太平洋戦争の連続性

- ・ 第2の満州国を狙う「華北分離工作」の始まり ⇔ 英米仏ソの蒋政権支援打倒
- ・ 日本 vs 中国（英米仏ソ）の世界戦争の構図に（1939）
- ・ 侵略・戦争体制強化のための植民地・占領地支配の強化

3. ジェノサイドを生んだ原因

- ・ 近代戦争観の矛盾・ダブルスタンダード：戦争相手を野蛮・非文明とみなす。
破壊を正当化、戦略爆撃の思想：空からのジェノサイドの実行

4. 戦後における平和主義思想とその発展

- ・ 余りにも無残で膨大な死：侵攻地の膨大なアジア人の犠牲
- ・ 日本軍戦没者の60%以上が餓死、90%は最後の一年間（民間人のほとんどはこの時期）
- ・ 膨大な人命の喪失による人々の絶望と苦難、加害と被害によるPTSDやDV=加害隠蔽の原因に
- ・ 戦後日本の平和主義：戦争や軍事的なものへの拒絶意識、再軍備批判、原水禁運動、ベヘイレン
- ・ 名古屋高裁 自衛隊イラク派遣違憲判決（2008）：平和的生存権の具体的権利性を認める

5. 戦争記憶・植民地支配の記憶の忘却をどのように克服するか？

- ・ 植民地支配は現代でも差別・格差・暴力として継続している。
- ・ 現在の戦争から学び、過去の戦争を掘り下げる。過去から現在の戦争を洞察・批判する。
- ・ 現在の植民地主義・差別構造から過去の植民地支配を掘り起こす。
- ・ 「被害か加害か」ではないスタンス：軍拡が対立と戦争を生み出してきた歴史の再認識
- ・ 記憶の継承、膨大な文書、映像資料・博物館・資料館の活用
- ・ 戦争・紛争・対立の根源は理解不足・誤認識にある

おわりに

- ① 積極的平和主義への転換：歴史認識・歴史教育の重要性
- ② 被害者にも加害者にもならないための記憶の継承

分科会：第13部会「地域の中の子どもたち」に参加

1. 地域の保護者と子供たちが作る「ホヤランプ」 寺下之雄（青森）

- ・ 子供たちが自然と関わる体験や人との触れ合いが希薄になる今、地域と子供たちが一体となって、普段なら見向きもされず、捨てられてしまうホヤの殻を再利用し、淡い光を放つ「ホヤランプ」を作り、その魅力とその取り組みを報告された。



2. 組合機関紙『学童保育』を1985年創刊から振り返る 小暮健一（埼玉）

- ・ 学童保育運動が盛り上がり始めた1980年代組合結成と共に機関紙『学童保育』が編集され始めた。全日自労建設農林一般労働組合の『学童保育指導員のしんぶん学童保育』、そのリニューアル『学童保育』の編集から携わった経験を振り返えられた。

3. 昔の那留小学校のひみつ 羽生和夫（岐阜）

- ・ 岐阜県山間地の小規模小学校の3年生を担任し、総合学習として「昔の学校はどうだったのか」を子どもたちとともに聞き取りや写真資料の読み取りなどで調べ、学習発表会で発表した。那留小学校ができたばかりの1960～70年代の昭和の学校と今の自分たちの学校とを比べ、変わってきたことや感覚の違いなどを「昔の那留小学校のひみつ」として、全校や保護者の前で発表した。

4. 江東5区マイナス地域防災 中瀬勝義（東京）

- ・ 関東大震災から100年が経ち、首都直下地震が、今後30年で70%の確率で襲来すると言われている。また、地球温暖化で台風が大型化、豪雨の強度化が進んでいる。江東5区は関東大震災以降の工業化で工業用水に地下水を揚水し続けたために地盤が沈下し、最大3～5mにも達している。万一、首都直下地震、大型台風で荒川氾濫が起これば、250万人住民の生活が崩壊しかねない。地域の子どもたちを守るためにも抜本的な取組が必要だ。



5. フリースクールの子供たちー仲間と共に学び育つ 今村洋介（埼玉）

- ・ フリースクールや宿題カフェ、和太鼓の実践を通して、不登校の子供たちがどのように学び、育っていったのか、地域の人態との交流や、イベントの運営、実施を通して居場所を作り上げ、社会に飛び立って言った過程から、今の子供たちに必要な学びを考えていきたいと考えている。

6. 練馬の学童保育について 伊藤昭二（東京）

- ・ 練馬の学童クラブは定員を守る形で進められてきた。学校内学童クラブは定員90名、1ユニット40名を弾力的に45名にし、2つで90名までとしている。障害児の受入も1施設2名から3人×2、施設6名まで、入会できない場合には近隣の児童館が受け入れている。指導員の余裕が？
- ・ 学校の校庭開放で外遊びが自由にできている。

閉会集会：今回461人参加で盛会のうちに閉会を迎えた。

- ・ 来年は滋賀県近江八幡の創立100年の中高一貫校ヴォーリズ学園での開催。

(注) [学校法人ヴォーリズ学園](#) | [滋賀県近江八幡市](#) | [近江兄弟社グループ](#)

所感：知人に紹介を頂き、づうづうしく、分科会「地域の中の子どもたち」

に参加した。テーマに合わないか心配したが、会長の記念講演を聞くことができ感謝一杯。歴史教育協議会の設立趣意書の「事実を痛切に反省し、歴史教育を発展させることが使命」に痛感させられた。関東大震災以降、江東5区は国を挙げての軍事体制化の流れの中、工業化が進展し、地下水を揚水し続け、地盤が沈降し、広大なマイナス地域となり、江東5区最大の防災課題が発生した。今ではそこに250万人が住んでいる。マイナス地域防災のために、誰も取り残さないSDGs精神を発揮し、水害避難支援システムづくりを急がねばならない。そのことを確認できた貴重な歴史教育者協議会に感謝したい。



国連事務総長の指摘する地球沸騰の対策には、氷河融解対策の為にもマイカーを止め、全国に行商を復活させ、石油消費を減らし、東京一極集中から地方創生・自給自足・循環型の国への回帰こそが具体策ではないだろうか。また来年は、近江兄弟社の作ったヴォーリズ学園とのこと。日本の貴重なプラスの遺産とも言うべき学園での第77回大会に期待が膨らむ。（文責 中瀬）